

令和6年度 高等学校との連携事業報告 －高城高等学校・飯野高等学校との連携の取組み－

宮内 孝
園田 博一
藤本 朋美
早川 純子

南九州大学は、平成29年3月に宮崎県立高城高等学校と、令和4年2月に宮崎県立飯野高等学校と連携協定を締結した。この協定に基づいて、人間発達学部子ども教育学科は、当該生徒へのサポート活動を実施している。

このサポート活動のことを高城高校では「ナタ・サポ」と呼んでいる。「ナタ」とは、南九州大学を南(ナ)大(タ)と呼び、「サポ」とはサポートを意味する。飯野高校では「ナンカイイね」と呼んでいる。「ナン」とは南九州大の南(ナン)、「イイ」は飯野高校の飯(イイ)を意味する。

今年度は、高城高校で実施したサポート活動について、以下の通り報告する。

I. 宮崎県立高城高等学校との連携

高城高等学校へは、生徒が取り組む課題研究、特に保育分野の「ナタ・サポ」に取り組んで8年目となる。

令和6年度は、高城高等学校、南九州大学、高城幼稚園の三者が、それぞれの資源を活用し協働することで、「保育士養成プログラム」を開発することを目的として、園児との交流や、高校生と大学生とがともに企画運営する行事の開催等を実施した。

本年度は、本学科教員が下記の2つの内容についてした。

1. 保育分野に必要な表現系の知識や技術の習得を目指した学習支援
2. 「ちびっこ運動会」の企画・運営のための学習支援

本稿では、このサポートの概要について報告する。

1. 保育分野に必要な表現系の知識や技術の習得を目指したサポート

保育分野において必要な、表現リズム、造形、言語表現の知識や技術習得を意図とした学習支援である。具体的には、下記の目的が高校から示された。

- 衣食住・保育等のスペシャリスト育成のため、学習の高度化を図った学習に取り組む。具体的には、保育検定の分野にもなっている表現リズム、造形、言語表現などに関する実技指導の充実を図る。
- 大学と連携をした授業を展開することで、よ

り専門性の高い学習へ興味関心がわき、将来、大学に進学し、地域貢献できる人材育成に繋げる。

このような目標達成に向けて、本学科教員が下記の講義を行った。

(1)造 形 担当：園田 博一

◇日 時：令和6年6月18日(火)
10時30分～12時15分

◇対 象：3年生：10名

◇場 所：宮崎県立高城高等学校

◇講座内容：保育実践「造形①造形の基礎 壁面構成」

保育における造形表現の意味を解説した。

実技演習として、クレヨン、色鉛筆などの身近な用具の扱いについて経験してもらった。絵の具を使ったフィンガーペインティングにも取り組んだ。初めてという生徒多く、絵の具の質感、触感を使った表現を体験ができた。色鉛筆を使った描画体験も行った。色鉛筆の持つ豊かな表現力を実感できたかと思う。楽しんでいる雰囲気があって、やっていてこちらも楽しめた。

◇日 時：令和6年10月11日(金)
13時30分～15時00分

◇対 象：3年生：12名

◇場 所：宮崎県立高城高等学校

◇講座内容：保育実践「造形②ペープサートや片手人形などの造形表現について」

ペープサートに関する基礎的な事項を確認した。

構造・材料について説明後、制作を行った。各自のテーマに沿ってキャラクターを考えオリジナルな作品作りができた。保育園での実習等で活用できるものと思う。

アイデアを出し合う中で、各自のパソコンを使用し、手軽に素材画像を入手できた。ICT 活用の一例となると思った。時間の短縮にもなり、効率的であった。



(2) 表現リズム 担当：早川 純子

◇日 時：

- ① 令和6年5月24日(金) 15時15分～16時30分
- ② 令和6年6月11日(火) 10時35分～12時15分
- ③ 令和6年6月14日(金) 15時30分～16時30分
- ④ 令和6年7月5日(金) 15時30分～16時45分
- ⑤ 令和6年7月12日(金) 15時15分～16時45分
- ⑥ 令和6年9月11日(水) 14時30分～16時30分
- ⑦ 令和6年9月13日(金) 13時20分～16時30分

◇対 象：2年生・3年生(生活文化科生徒)

◇場 所：高城高等学校(家庭科実習室)

◇講座内容

今年度は、保育検定試験受験予定の生徒を対象にした試験対策、および保育実践のための実践的講義と実技を実施した。

〈試験対策について〉

保育検定試験は年に2回実施されるが、1回目の試験で受験生全員が合格したため、指導は前半のみとなった。生徒たちは意欲的に取り組み、積極的に質問を行い、理解できるまで粘り強く学習する姿勢が見られた。非常に優秀な生徒たちであった。

〈保育実践のための授業(日程②⑦)〉

まず、高校生が保育を行うことになる5歳児、6歳児の発達段階を確認した後、音楽あそびを体

験した。

- 手あそび
- 体を動かすあそび
- ペアになってあそぶ
- みんなであそぶ

身体を部分的に使うあそびから全身を使うあそびへ、また、一人あそびから二人あそび、最後は全員でのあそびへと段階的に進めた。

消極的な子どもへの対応については、以下の助言を行なった。

- リラックスした雰囲気を作る
- 好きなキャラクターを取り入れる
- スモールステップで少しずつ参加させる(最初は観察のみでも可)
- 参加意欲を見せたら積極的に褒める
- 他の子どもが楽しんでいる様子を見せる
- 無理に強制せず、子どものペースに合わせる

〈グループワークによる活動実践〉

前半の実践的な講義を踏まえ、後半では次の流れで生徒自身が保育内容を考える実践を行った。

- 準備(目的の明確化)
- 活動の流れ
- 挨拶と導入
- 曲紹介
- 遊び方の説明と模範演技
- 一緒にやってみる
- 繰り返し練習
- バリエーションを加える
- まとめ(お礼と振り返り)

さらに、子どもが飽きないように楽しんでいるかを常に確認すること、安全に動作できるようスペースを確保すること、無理のない範囲で行うことなどの配慮も指導した。

〈高城幼稚園での高校生による保育実践(7月9日)〉

実践当日は、一人ひとりが自分の役割をしっかりと果たし、園児の声に負けない大きな声で指導を行っていた。園児の思いがけない言動にも動じず、臨機応変に対応しながら、考え抜かれたプログラムをチームワークで見事にやり遂げていた。彼らの姿から、将来素晴らしい保育者に成長することを強く実感した。

(3) 言語 担当: 藤本 朋美

◇日時:

第1回 令和6年6月4日(火)

いずれも10時35分～12時00分

◇対象: 3年生

◇場所: 宮崎県立高城高等学校

◇講座内容:

第1回 絵本の読み聞かせ講座

〈ねらい〉

①保育・幼児教育においてなぜ「絵本」が重要とされるのか、その意味について考える。

②絵本の読み聞かせを行い、その留意点を知る。

講座は、実際に絵本に触れながら演習形式で行った。『いないいないばあ』のように長年読み継がれている絵本をはじめ20冊程度の絵本を持参した。

絵本の意義のほか児童文化財についても触れ、子どもたちの身の回りにある遊びについて解説を行った。読み聞かせ演習では生徒が読みたい絵本を選び、実際に読み合いを行った。読み合うことに多少の恥ずかしさが見られたが、自身が幼いころにふれた絵本との再会によって、和やかで楽しい雰囲気のなか、読み聞かせを行うことができた。絵本とのふれあいをきっかけとして、言葉が子どもたちに与える影響について考えながら、同時に自身の言葉との向き合い方を考えることのできる活動を今後も計画していきたい。

(4) 保育実習に向けて

◇日時:

第1回 令和6年7月12日(金)

第2回 令和6年11月15日(金)

いずれも13時20分～15時00分

◇対象: 3年生

◇場所: 宮崎県立高城高等学校

◇講座内容:

第1回 観察及び記録の方法

保育実習を行うにあたって、①どのような視点で子どもを観察したらよいのか、②観察から得た情報をもとにどのような援助につなげていくのかについて、意見交換形式で講義を行った。高校生が高城幼稚園で行った1回目の実習の様子を写真や動画で振り返りながら、場面毎に子どもの思いを再度予想することで、どのような援助が求められるのかについて検討を行った。子どもの発言だけでなく、目線や表情、友達との関りなどから子どもを理解することの大切さと、その子どもへの理解が自身の援助のあり方につながることにについて共に考える時間となった。

第2回 子育て支援

都城市の子育て支援の現状とともに、子育て支援の課題について講義を行った。

「こどもまんなか社会の実現」や「こども基本法」などをキーワードにして、高校生立場から子育て支援は必要なのか、誰を支援することなのか等についてグループワークを行った。

高校生にとって、子育てやその支援を具体的にイメージするということが難しいようであった。子育ての当事者ではない高校生に子育て支援をどう伝えていくのかということが課題となる。一方で、高校生が見ている、または高校生から見える子どもや子育て家庭、地域の姿を明らかにすることは、特に次世代を担う若い世代が社会をどうとらえているのかを明らかにすることにつながる。その点から議論を始めることも子育て支援の充実につながるのではないかと考える。

◇「企業・郷土探究」講習会

日 時：令和6年7月2日（火）

11時40分～14時00分

対 象：1年生 40名

場 所：南九州大学

「企業・郷土探究」の一環として、都城キャンパスにて下記の内容を実施した。

- (1) 学生生活発表
- (2) 大学の施設見学
- (3) 学生による保育・教育学の学びの発表
- (4) グループワーク

子ども教育学科の学生生活や教育の営みなどについて、学生が高校生に報告した。その後、当該高校出身の学生を含めた小グループで、本講座の振り返りを行った。

この講座は、高校1年生を対象としており、高城高校・高城幼稚園との公私連携保育士養成プログラムの導入に講座として位置づけている。

2. 「ちびっこ運動会」の企画・運営のためのサポート

担当：宮内 孝

「ちびっこ運動会」とは、生活情報科2年生の生徒が高城幼稚園児を招待して実施する運動会のことである。この運動会の企画運営に取り組む生徒への3つのサポートを実施した。

(1) 「ちびっこ運動会」開催に向けてのワークショップ

◇日 時：令和6年6月10日（月）

13時20分～14時 5分

◇場 所：宮崎県立高城高等学校

◇講座内容

幼児の発達段階を踏まえた運動会種目の内容や子どもへの指示・説明の仕方などについて実技を交えて行った。運動会種目については、年長児にとって、簡単でしかも勝敗が明確にわかる運動遊びを紹介した。

また、高校生を幼児と見立てて実技をするなかで、子どもへの指示・説明のあり方について指導した。

(2) 「ちびっこ運動会」参観

◇日 時：令和6年11月29日（火）

10時00分～11時30分

◇場 所：宮崎県立高城高等学校

◇講座内容

「ちびっこ運動会」に参加して、運動種目の内容や高校生の指示・説明の仕方、そして子どもへのかかわり方の様子を観察した。

(3) 「ちびっこ運動会」活動のまとめへの指導助言

◇日 時：令和6年12月16日（月）

13時20分～14時05分

◇場 所：宮崎県立高城高等学校

◇講座内容

「ちびっこ運動会」の振り返りの発表会に参加した。支援した子ども教育学科の学生とともに振り返りについての指導助言を行った。

(4) 子ども教育学科の学生による支援

高城高校出身学生を中心にした4名の学生からなる「高城高校支援チーム」をつくった。この支援チームは、6月実施の「高城幼稚園との交流会」に向けての準備へのアドバイスを高校生に行った。また、「ちびっこ運動会」の準備や運動会実施後の報告会においても、アドバイスや感想を高校生に提供した。

高校生からは、年齢的に近い学生からのアドバイスでもあり極めて好評であった。また、当該高校出身の学生がアドバイスする姿を高校の先生が触れることで、教え子達の成長ぶりを実感する機会ともなった。支援した学生にとっては、大学での学びを活用してわかりやすく伝える取組みをすることで、自己の学びを深めたり保育観や教育観を振り返ったりするよい機会となった。

3. 「ナタ・サポ」を振り返って

この取組みをスタートして、7年が経過した。この7年間の取組みによって、円滑に本事業が運営できるようになった。

この取り組みは、今後「公私連携保育士養成プログラム」としてさらに発展充実させながら、高城高校と子ども教育学科の双方にメリットとなる連携にしていきたい。

初期の目的は達成できたようである。

次年度は、生徒の実態に適したサポート活動を検討しながら、子ども教育学科の営みと高校生の活動が連携できるような手立てを講じていきたい。

II. 宮崎県立飯野高等学校との連携

本年度は、飯野高等学校での「ナンカイイね」の3年目であった。本学科教員は、下記のサポートを実施した。

1. 子育て支援イベント企画・運営のための学習支援 担当：宮内 孝

(1)運動会開催に向けてのワークショップ

◇日 時：令和6年5月17日（金）

13時20分～14時30分

◇場 所：宮崎県立飯野高等学校

◇講座内容

幼児の発達段階を踏まえた運動会種目の内容や子どもへの指示・説明の仕方などをテーマとした実技指導を実施した。子ども教育学科の学生は、高校生に指導・助言を行った。学生にとっては、貴重な学びの機会となった。

(2)「運動会」参観と振り返り

◇日 時：令和6年7月17日（水）

13時30分～15時30分

◇場 所：宮崎県立飯野高等学校

◇講座内容

「運動会」に参加して、運動種目の内容や高校生の指示・説明の仕方、そして子どもへのかかわり方の様子を観察した。

運動会終了後、運動会で取り上げた種目内容のよさについて、運動学的な立場で解説した。また、効率的なマネジメントのよさについてもふれた。

生徒が実施した活動のよさを肯定し、そして意味づけを図るようにして、生徒の達成感や自己肯定感が高まるように努めた。

4. 「ナンカイイね」を振り返って

3年目の取組みであることから、生徒の実態・要望等を把握しながらのサポート活動であったが、